

大学番号：私立172

[平成31年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

届出

岐阜女子大学大学院

文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻

文化創造学研究科（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人華陽学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学事部

職名・氏名 チヨウサヤク 調査役・ハシヅメヤスオ 橋詰恵雄

電話番号 058-229-2211

（夜間） 058-229-2211

F A X 058-229-2222

e-mail hasizume@gijodai.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

＜文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	19
7. その他全般的事項	20

＜文化創造学研究科（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	24
2. 授業科目の概要	28
3. 施設・設備の整備状況、経費	32
4. 既設大学等の状況	33
5. 教員組織の状況	34
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人華陽学園

(2) 大学名

岐阜女子大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒501-2592
岐阜市太郎丸80番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スギヤマヒロフミ) 杉山 博文 (昭和60年4月1日)		
学長	(マツカワレイコ) 松川 禮子 (平成30年4月1日)		
研究科長	(イクタタカシ) 生田 孝至 (平成26年2月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻（修士課程） 修士（文学）	文学関係	2年	3人	年次人	6人	基礎となる学部等 文化創造学部 文化創造学科 文化創造学専攻 デジタルアーカイブ専攻 初等教育学専攻

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 3 (-) [-]	人 3 (-) [-]	人 3 (-) [-]	人 3 (-) [-]	0.50倍	一倍	
志願者数	0 (-) [-]	2 (-) [-]	1 (-) [-]	人 () []			
受験者数	0 (-) [-]	2 (-) [-]	1 (-) [-]	人 () []			
合格者数	0 (-) [-]	2 (-) [-]	1 (-) [-]	人 () []			
B 入学者数	0 (-) [-]	2 (-) [-]	1 (-) [-]	人 () []			
入学定員超過率 B/A	0.67		0.33				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、

報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

- ・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和元年度		令和2年度							備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1年次	0 [-] (0)	3 [-] (0)	1 [-] (0)	[] ()						【令和元年度 転専攻1名】 (通信教育課程) デジタルアーカイブ 専攻より、(通学制) デジタルアーカイブ 専攻へ転専攻 (令和元年度10月入 学生)
2年次	/		0 [-] (0)	3 [-] (0)						
計	3 [0] (0)		4 [0] (0)							

・令和2年5月1日 公表

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	3人	0人	令和元年度	0人	0人	
令和2年度	4人	0人	令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0.00} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0.00} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義	伝統文化特講	2前	2								3
	日本文化特講Ⅰ	1前	2								1
	日本文化特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前	2		1						1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前	2								1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後	2								1
	英語学特講Ⅰ	1前	2								1
	英語学特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前	2			1					1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後	2		1	1					
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後	2		2						
	地域文化特講	1後	2		1	1					
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後	2		2						
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前	2		1						
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前	2		1	1					1
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後	2		1						1
	実践研究Ⅰ	2前	2		1		1				
	実践研究Ⅱ	1前	2			1					
	教育実践特講	1前	2								1
	教育原理特講	1後	2								1
	学校経営特講	1後	2								1
	教材開発特講	1前	2								1
	教材開発研究	2前	2								1
教育方法特講	2後	2								1	
教育法規研究	1前	2								1	
教育方法研究～伝統文化～	2前	2								1	
臨床心理学特講	2前	2								1	
教育経営特講	1後	2								1	
演習	日本文化演習Ⅰ	1前～1後	2								1
	英語学演習Ⅰ	1前～1後	2								1
	文化メディア演習	1前～1後	2		1						1
	デジタルアーカイブ演習	1前～1後	2			1					1
小計(32科目)	-	0	64	0	4	3	1	0	0	16	
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1				3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	3
合計(33科目)	-	4	64	0	4	3	1	0	0	16	
卒業要件及び履修方法											
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義	伝統文化特講	2前	2						1			2
	日本文化特講Ⅰ	1前	2									1
	日本文化特講Ⅱ	1後	2									1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前	2		1							1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前	2									1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後	2									1
	英語学特講Ⅰ	1前	2									1
	英語学特講Ⅱ	1後	2									1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前	2			1						1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後	2		1	1						
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後	2		2							
	地域文化特講	1後	2		1	1						
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後	2		2							
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前	2		1							
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前	2		1	1					1	
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後	2		1			1				
	実践研究Ⅰ	2前	2		1		1					
	実践研究Ⅱ	1前	2			1					1	
	教育実践特講	1前	2									1
	教育原理特講	1後	2									1
	学校経営特講	1後	2									1
	教材開発特講	1前	2									1
	教材開発研究	2前	2									1
教育方法特講	2後	2									1	
教育法規研究	1前	2									1	
教育方法研究～伝統文化～	2前	2									1	
臨床心理学特講	2前	2									1	
教育経営特講	1後	2									1	
演習	日本文化演習Ⅰ	1前～1後	2									1
	英語学演習Ⅰ	1前～1後	2									1
	文化メディア演習	1前～1後	2		1		1					
	デジタルアーカイブ演習	1前～1後	2			1						1
小計(32科目)	-	0	64	0	4	3	1	1	0	0	15	
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1					3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	0	3
合計(33科目)	-	4	64	0	4	3	1	1	0	0	15	
卒業要件及び履修方法												
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義	伝統文化特講	2前		2			1					2
	日本文化特講Ⅰ	1前		2								1
	日本文化特講Ⅱ	1後		2								1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前		2		1						1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前		2								1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後		2								1
	英語学特講Ⅰ	1前		2								1
	英語学特講Ⅱ	1後		2								1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前		2			1					1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後		2		1	1					
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後		2		2						
	地域文化特講	1後		2		1	1					
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後		2		2						
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前		2		1						
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前		2		1				1		
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後		2		1	1					
	実践研究Ⅰ	2前		2		1			1			
	実践研究Ⅱ	1前		2		1				1		
	教育実践特講	1前		2								1
	教育原理特講	1後		2								1
	学校経営特講	1後		2								1
	教材開発特講	1前		2								1
	教材開発研究	2前		2								1
	教育方法特講	2後		2								1
	教育法規研究	1前		2								1
	教育方法研究～伝統文化～	2前		2								1
	臨床心理学特講	2前		2								1
	教育経営特講	1後		2								1
演習	日本文化演習Ⅰ	1前～1後		2								1
	英語学演習Ⅰ	1前～1後		2								1
	文化メディア演習	1前～1後		2		1	1					
	デジタルアーカイブ演習	1前～1後		2			1					
小計(32科目)		0	64	0	4	3	1	1	0		15	
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1					3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	0	3
合計(33科目)			-	4	64	0	4	3	1	1	0	15
卒業要件及び履修方法												
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 就任区分を兼任より専任に変更により、「伝統文化特講」「アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～」 「文化メディア演習」の「兼任・兼任」より1を減じ、専任教員の配置に「准教授1」を追加。
- ・ 専任教員の就任辞退および補充により、「アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・ 専任教員の就任辞退および補充により、「実践研究II」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1、助教1」に変更。

【令和2年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	32 科目	0 科目	33 科目	1 科目 [0]	32 科目 [0]	0 科目 [0]	33 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{33} = \boxed{0.00}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	35,350㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,350㎡				
	運 動 場 用 地	21,295㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,295㎡				
	小 計	65,121㎡	0 ㎡	0 ㎡	65,121㎡				
	そ の 他	72,558㎡	0 ㎡	0 ㎡	72,558㎡				
	合 計	129,203㎡	0 ㎡	0 ㎡	129,203㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		27,436㎡ (27,436㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	27,436㎡ (27,436㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情 報 処 理 学 習 施 設	語 学 学 習 施 設	大学全体			
	34室	7室	55室	4室 (補助職員 0.5人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	文化創造学研究科デジタルアーカイブ専攻			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能 のため、大学全体の数	
		冊	種						
	・文化創造学研究科デジタルアーカイブ専攻 ・文化創造学研究科（通信教育課程）デジタルアーカイブ専攻	150,489 [22,070] (140,871 [22,010])	2,277 [148] (2,277 [148])	0 [0] (0 [0])	3,919 (3,919)	16 (16)	0 (0)		
	計	150,489 [22,070] (140,871 [22,010])	2,277 [148] (2,277 [148])	0 [0] (0 [0])	3,919 (3,919)	16 (16)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	1,598㎡		200		152,600				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	1,661㎡		テニスコート 3面		弓道場 1				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能のため、学部と合計
		教員1人当り研究費等	590千円	590千円	図書購入費	6,700千円	6,700千円	6,700千円	
	共同研究費等	6,000千円	6,000千円	設備購入費	4,400千円	4,400千円	4,400千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	655千円	550千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		授業料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入を充当する。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		岐阜女子大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
家政学部											
生活科学科	4	50	—	170	学士 (家政学)	0.67	0.52	令和2	平成17年度	岐阜市太郎丸80番地	定員変更 (10)
健康栄養学科	4	120	—	600	学士 (家政学)	0.72	0.79	令和2	平成17年度	同上	定員変更 (△40)
文化創造学部											
文化創造学科	4	160	—	550	学士 (文学)	0.56	0.59	令和2	平成18年度	岐阜市太郎丸80番地	定員変更 (30)
文化創造学研究科											
文化創造学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.24	0.33	—	平成18年度	岐阜市太郎丸80番地	
デジタルアーカイブ専攻	2	3	—	6	修士 (文学)	0.49	0.33	—	令和元年度	同上	
初等教育学専攻	2	4	—	8	修士 (文学・教育学)	1.62	1.50	—	平成19年度	同上	
生活科学研究科											
生活科学専攻	2	6	—	12	修士 (生活科学)	0.24	0.33	—	平成16年度	岐阜市太郎丸80番地	
文化創造学研究科 (通信教育課程)											
文化創造学専攻	2	15	—	30	修士 (文学)	0.13	0.00	—	平成20年度	岐阜市太郎丸80番地	
デジタルアーカイブ専攻	2	7	—	14	修士 (文学)	0.49	0.14	—	令和元年度	同上	
初等教育学専攻	2	15	—	30	修士 (文学・教育学)	0.43	0.46	—	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	井上 透 (66) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (65) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (47) <平成31年4月>	地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (61) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	石原 真理 (60) <平成31年4月>	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
専	准教授	樺 彩見 (40) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加藤 真由美 (42) <平成31年4月>	地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (51) <平成31年4月>	実践研究I
兼任	教授	安藤 義久 (63) <平成31年4月>	英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (75) <平成31年4月>	教育方法特講

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	井上 透 (66) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (65) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (47) <平成31年4月>	地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (62) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 実践研究II 修士論文作成特別研究
専	准教授	樺 彩見 (41) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加治工 尚子 (45) <平成31年4月>	伝統文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習
専	准教授	加藤 真由美 (42) <平成31年4月>	地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (51) <平成31年4月>	実践研究I
専	助教	石橋 豊之 (29) <平成31年4月>	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
兼任	教授	安藤 義久 (63) <平成31年4月>	英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (75) <平成31年4月>	教育方法特講

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	井上 透 (67) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (66) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (48) <平成31年4月>	地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (63) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 実践研究II 修士論文作成特別研究
専	准教授	樺 彩見 (42) <平成31年4月>	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加治工 尚子 (46) <平成31年4月>	伝統文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習
専	准教授	加藤 真由美 (43) <平成31年4月>	地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (52) <平成31年4月>	実践研究I
専	助教	石橋 豊之 (30) <平成31年4月>	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
兼任	教授	安藤 義久 (64) <平成31年4月>	英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (76) <平成31年4月>	教育方法特講

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	亀井 俊介 (86) <平成31年4月> 文化学特講～日米文化の比較～	兼任	教授	亀井 俊介 (86) <平成31年4月> 文化学特講～日米文化の比較～			
兼任	教授	河原 俊昭 (68) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～	兼任	教授	河原 俊昭 (68) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～	兼任	教授	河原 俊昭 (69) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～ 文化学特講～日米文化の比較～
兼任	教授	後藤 忠彦 (83) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	後藤 忠彦 (83) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	後藤 忠彦 (84) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	助川 幸逸郎 (51) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	助川 幸逸郎 (51) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	助川 幸逸郎 (52) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～	兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～	兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～
兼任	教授	高橋 正司 (58) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講	兼任	教授	高橋 正司 (58) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講	兼任	教授	高橋 正司 (59) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講
兼任	教授	三尾 寛次 (61) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講	兼任	教授	三尾 寛次 (61) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講	兼任	教授	三尾 寛次 (62) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講
兼任	教授	横山 隆光 (64) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究	兼任	教授	横山 隆光 (64) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究	兼任	教授	横山 隆光 (65) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究
兼任	准教授	加治工 尚子 (44) <平成31年4月> 伝統文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習						
兼任	准教授	齋藤 陽子 (40) <平成31年4月> 教育実践特講	兼任	准教授	齋藤 陽子 (40) <平成31年4月> 教育実践特講	兼任	准教授	齋藤 陽子 (41) <平成31年4月> 教育実践特講
兼任	講師	青戸 泰子 (60) <平成31年4月> 臨床心理学特講	兼任	講師	青戸 泰子 (60) <平成31年4月> 臨床心理学特講	兼任	講師	青戸 泰子 (61) <平成31年4月> 臨床心理学特講
兼任	講師	大城 學 (66) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	大城 學 (66) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	大城 學 (67) <平成31年4月> 伝統文化特講
兼任	講師	木村 涼 (39) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	木村 涼 (40) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	木村 涼 (41) <平成31年4月> 伝統文化特講
兼任	講師	時実 象一 (75) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講	兼任	講師	時実 象一 (75) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講	兼任	講師	時実 象一 (76) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・石原眞理准教授（専任）就任辞退。
- ・加治工尚子准教授就任区分を兼担より専任に変更。
- ・石橋豊之助教（専任）就任。

【令和2年度】

- ・亀井俊介教授（兼担）辞任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
2	2	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	3	1	0	8	0	4	3	1	1	9	0
(4)	(3)	(1)	(1)	(9)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
5	0	3				5	0	4			
(5)	(0)	(4)	/			(5)	(0)	(4)	/		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
4	3	1	1	9	0	4	3	1	1	9	0
[]	[]	[]	[1]	[1]	[]	[]	[]	[]	[1]	[1]	[]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
5	0	4				5	0	4			
[]	[]	[1]	/			[]	[]	[1]	/		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定 年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のう ち、定年を延長して 採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員のう ち、定年を延長して 採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{8} = \boxed{112.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{9} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	准教授	石原 真理	H31.3	選択	アーカイブ研究Ⅱ ～MLA資料研究～	①	H31.3一身上の都合のため就任辞退（元）
				選択	実践研究II	①	
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目
		必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目
		必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目
		必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{8} = 12.50 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

石原眞理准教授の後任については、新規採用教員で対応する。
学生へは、新学期ガイダンス及び時間割等で周知する。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
設 置 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	・令和元年度については、専任教員2名（准教授 45歳、助教 29歳）を採用し、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員比率の改善を図った。引き続き、教員組織編成の年齢バランスを考慮して教員補充を進め、デジタルアーカイブの教育並びに研究指導ができる体制を確立する。（元）	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文化創造学研究科 デジタルアーカイブ専攻（修士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	「該当なし」

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜女子大学FD委員会規程（平成25年4月1日施行）添付 ・ 岐阜女子大学SD委員会規程（平成25年4月1日施行）添付 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和2年度は以下のとおり開催を予定している。なお、FD委員会には教員11名、SD委員会には教員1名が参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD委員会 令和2年5月11日（月）、9月7日（月）、令和3年3月1日（月） ・ SD委員会 令和2年5月11日（月）、9月7日（月） <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD委員会 <ul style="list-style-type: none"> FDの企画に関すること FDの実施に関すること FDの評価に関すること その他、FDの推進に関すること ・ SD委員会 <ul style="list-style-type: none"> SDの企画に関すること SDの実施に関すること その他、SDの推進に関すること <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD研修会 ・ 授業見学会 ・ SD教職員研修会 ・ 研究倫理研修 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD研修会 <ul style="list-style-type: none"> FD委員会等で企画し、教員等の参加のもと、教育研究内容及び教育方法の向上を目的として研修を行う。 ・ 授業見学会 <ul style="list-style-type: none"> FD委員会等で企画し、教員等の参加のもと、教育研究内容及び教育方法の向上を目的として見学会を行う。 ・ SD教職員研修会

S D委員会等で企画し、教員および事務局職員の参加のもと、大学経営及び大学改革の推進を目的として研修を行う。

・研究倫理研修

F D委員会等で企画し、教員等の参加のもと、研究不正の防止を目的として研修を行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・F D研修会

毎年度9月に開催。専任教員は原則として全員参加。

・授業見学会

毎年度5月に開催。専任教員は原則として全員参加。

・S D教職員研修会

毎年度7月に開催。専任教員および事務職員は原則として全員参加。

・研究倫理研修

毎年度9月に開催。専任教員は原則として全員参加。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

F D研修では、授業や研究指導の工夫・改善を共有することによって、教員各自が自らの授業や研究指導を振り返り、個別の授業や研究指導の中で改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期末の授業終了時に「授業改善に関わる学生アンケート」を実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

「授業改善に関わる学生アンケート」の結果および授業改善策を、全専任教員等を対象に対して公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

「該当なし」

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

「該当なし」

c 委員会の審議事項等

「該当なし」

d その他

「該当なし」

② 審議状況

a 審議した内容

「該当なし」

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

「該当なし」

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づいて、授業及び研究指導を着実に実施している。
設置の趣旨に沿った教育および研究を実施し、マルチメディア等の新たな技術を身につけ、主体性を持って豊かな文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を進めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

令和3年4月頃公開する予定をしている。外部評価委員会報告書では、各学科・専攻、大学院の学修状況等の報告内容および、外部の評価委員からの講評等を公開している。

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年4月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人華陽学園

(2) 大学名

岐阜女子大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒501-2592
岐阜市太郎丸80番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スギヤマヒロフミ) 杉山 博文 (昭和60年4月1日)		
学長	(マツカワレイコ) 松川 禮子 (平成30年4月1日)		
研究科長	(イクタタカシ) 生田 孝至 (平成26年2月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文化創造学研究科（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻（修士課程） 修士（文学）	文学関係	2年	7人	年次人	14人	基礎となる学部等 文化創造学部 文化創造学科 文化創造学専攻 デジタルアーカイブ専攻 初等教育学専攻

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 7 (-) [-]	人 4 (-) [-]	人 7 (-) [-]	人 1 (-) [-]	0.50倍	一倍	
志願者数	2 (-) [-]	4 (-) [-]	1 (-) [-]	1 () []			
受験者数	2 (-) [-]	4 (-) [-]	1 (-) [-]	1 () []			
合格者数	2 (-) [-]	4 (-) [-]	1 (-) [-]	1 () []			
B 入学者数	2 (-) [-]	4 (-) [-]	1 (-) [-]	1 () []			
入学定員超過率 B/A	0.86		0.14				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、

報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

- ・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和元年度		令和2年度							備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1年次	2 [-] (0)	3 [-] (0)	1 [-] (0)	[] ()						【令和元年度 転専攻1名】 (通信教育課程) デジタルアーカイブ 専攻より、(通学制) デジタルアーカイブ 専攻へ転専攻 (令和元年度10月入 学生)
2年次	/		2 [-] (0)	3 [-] (0)						
計	5 [0] (0)		6 [0] (0)							

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	5人	0人	令和元年度	0人	0人	
令和2年度	6人	0人	令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0.00} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文化創造学研究所（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義	伝統文化特講	2前	2								3
	日本文化特講Ⅰ	1前	2								1
	日本文化特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前	2		1						1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前	2								1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後	2								1
	英語学特講Ⅰ	1前	2								1
	英語学特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前	2			1					1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後	2			1	1				
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後	2			2					
	地域文化特講	1後	2			1	1				
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後	2			2					
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前	2			1					
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前	2			1	1				1
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後	2			1					1
	実践研究Ⅰ	2前	2			1		1			
	実践研究Ⅱ	1前	2				1				
	教育実践特講	1前	2								1
	教育原理特講	1後	2								1
	学校経営特講	1後	2								1
	教材開発特講	1前	2								1
	教材開発研究	2前	2								1
教育方法特講	2後	2								1	
教育法規研究	1前	2								1	
教育方法研究～伝統文化～	2前	2								1	
臨床心理学特講	2前	2								1	
教育経営特講	1後	2								1	
演習	日本文化演習Ⅰ	1後	2								1
	英語学演習Ⅰ	1後	2								1
	文化メディア演習	1前	2			1					1
	デジタルアーカイブ演習	1前	2				1				1
小計(32科目)	-	0	64	0	4	3	1	0	0	0	16
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1				3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	3
合計(33科目)	-	4	64	0	4	3	1	0	0	0	16
卒業要件及び履修方法											
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義	伝統文化特講	2前	2							1	2
	日本文化特講Ⅰ	1前	2								1
	日本文化特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前	2			1					1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前	2								1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後	2								1
	英語学特講Ⅰ	1前	2								1
	英語学特講Ⅱ	1後	2								1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前	2				1				1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後	2				1	1			
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後	2			2					
	地域文化特講	1後	2			1	1				
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後	2			2					
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前	2			1					
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前	2			1				1	
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後	2			1		1			
	実践研究Ⅰ	2前	2			1			1		
	実践研究Ⅱ	1前	2				1			1	
	教育実践特講	1前	2								1
	教育原理特講	1後	2								1
	学校経営特講	1後	2								1
	教材開発特講	1前	2								1
	教材開発研究	2前	2								1
教育方法特講	2後	2								1	
教育法規研究	1前	2								1	
教育方法研究～伝統文化～	2前	2								1	
臨床心理学特講	2前	2								1	
教育経営特講	1後	2								1	
演習	日本文化演習Ⅰ	1後	2								1
	英語学演習Ⅰ	1後	2								1
	文化メディア演習	1前	2			1		1			1
	デジタルアーカイブ演習	1前	2				1				1
小計(32科目)	-	0	64	0	4	3	1	1	0	0	15
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1				3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	3
合計(33科目)	-	4	64	0	4	3	1	1	0	0	15
卒業要件及び履修方法											
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義	伝統文化特講	2前		2			1					2
	日本文化特講Ⅰ	1前		2								1
	日本文化特講Ⅱ	1後		2								1
	デジタルアーカイブ文化政策特講	1前		2		1						1
	文化学特講～日米文化の比較～	2前		2								1
	社会言語学特講～言語と社会～	2後		2								1
	英語学特講Ⅰ	1前		2								1
	英語学特講Ⅱ	1後		2								1
	デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～	1前		2			1					1
	デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～	1後		2		1	1					
	デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～	1後		2		2						
	地域文化特講	1後		2		1	1					
	文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～	2後		2		2						
	アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～	1前		2		1						
	アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～	2前		2		1				1		
	アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～	1後		2		1	1					
	実践研究Ⅰ	2前		2		1			1			
	実践研究Ⅱ	1前		2		1				1		
	教育実践特講	1前		2								1
	教育原理特講	1後		2								1
	学校経営特講	1後		2								1
	教材開発特講	1前		2								1
	教材開発研究	2前		2								1
	教育方法特講	2後		2								1
	教育法規研究	1前		2								1
	教育方法研究～伝統文化～	2前		2								1
	臨床心理学特講	2前		2								1
教育経営特講	1後		2								1	
演習	日本文化演習Ⅰ	1後		2								1
	英語学演習Ⅰ	1後		2								1
	文化メディア演習	1前		2		1	1					
	デジタルアーカイブ演習	1前		2			1					
小計(32科目)		0	64	0	4	3	1	1	0		15	
特別研究	修士論文作成特別研究	2前～2後	4			4	1					3
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	1	0	0	0	0	3
合計(33科目)			-	4	64	0	4	3	1	1	0	15
卒業要件及び履修方法												
修了に必要な30単位のうち、デジタルアーカイブ専攻の授業科目「修士論文作成特別研究(4単位)」は必修、同専攻から8科目16単位以上を選択必修とし、残り10単位は研究科の授業科目から選択必修する。これを1年次・2年次にわたって修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた業績を上げた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 就任区分を兼任より専任に変更により、「伝統文化特講」「アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～」 「文化メディア演習」の「兼任・兼任」より1を減じ、専任教員の配置に「准教授1」を追加。
- ・ 専任教員の就任辞退および補充により、「アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・ 専任教員の就任辞退および補充により、「実践研究II」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1、助教1」に変更。

【令和2年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	32 科目	0 科目	33 科目	1 科目 [0]	32 科目 [0]	0 科目 [0]	33 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{33} = \boxed{0.00}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	35,350㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,350㎡				
	運 動 場 用 地	21,295㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,295㎡				
	小 計	65,121㎡	0 ㎡	0 ㎡	65,121㎡				
	そ の 他	72,558㎡	0 ㎡	0 ㎡	72,558㎡				
	合 計	129,203㎡	0 ㎡	0 ㎡	129,203㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		27,436㎡ (27,436㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	27,436㎡ (27,436㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情 報 処 理 学 習 施 設	語 学 学 習 施 設	大学全体			
	34室	7室	55室	4室 (補助職員 0.5人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	文化創造学研究科デジタルアーカイブ専攻			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能 のため、大学全体の数	
		冊	種						
	・文化創造学研究科デジタル アーカイブ専攻 ・文化創造学研究科（通信教育 課程）デジタル アーカイブ専攻	150,489 [22,070] (140,871 [22,010])	2,277 [148] (2,277 [148])	0 [0] (0 [0])	3,919 (3,919)	16 (16)	0 (0)		
	計	150,489 [22,070] (140,871 [22,010])	2,277 [148] (2,277 [148])	0 [0] (0 [0])	3,919 (3,919)	16 (16)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	1,598㎡		200		152,600				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	1,661㎡		テニスコート 3面		弓道場 1				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能のため、学部と合計
		教員1人当り研究費等	590千円	590千円	図書購入費	6,700千円	6,700千円	6,700千円	
	共同研究費等	6,000千円	6,000千円	設備購入費	4,400千円	4,400千円	4,400千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	655千円	550千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		授業料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入を充当する。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		岐阜女子大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
家政学部											
生活科学科	4	50	—	170	学士 (家政学)	0.67	0.52	令和2	平成17年度	岐阜市太郎丸80番地	定員変更 (10)
健康栄養学科	4	120	—	600	学士 (家政学)	0.72	0.79	令和2	平成17年度	同上	定員変更 (△40)
文化創造学部											
文化創造学科	4	160	—	550	学士 (文学)	0.56	0.59	令和2	平成18年度	岐阜市太郎丸80番地	定員変更 (30)
文化創造学研究科											
文化創造学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.24	0.33	—	平成18年度	岐阜市太郎丸80番地	
デジタルアーカイブ専攻	2	3	—	6	修士 (文学)	0.49	0.33	—	令和元年度	同上	
初等教育学専攻	2	4	—	8	修士 (文学・教育学)	1.62	1.50	—	平成19年度	同上	
生活科学研究科											
生活科学専攻	2	6	—	12	修士 (生活科学)	0.24	0.33	—	平成16年度	岐阜市太郎丸80番地	
文化創造学研究科 (通信教育課程)											
文化創造学専攻	2	15	—	30	修士 (文学)	0.13	0.00	—	平成20年度	岐阜市太郎丸80番地	
デジタルアーカイブ専攻	2	7	—	14	修士 (文学)	0.49	0.14	—	令和元年度	同上	
初等教育学専攻	2	15	—	30	修士 (文学・教育学)	0.43	0.46	—	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜文化創造学研究科（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	井上 透 (66) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (65) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (47) <平成31年4月>
		地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (61) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	石原 真理 (60) <平成31年4月>
		アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
専	准教授	樺 彩見 (40) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加藤 真由美 (42) <平成31年4月>
		地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (51) <平成31年4月>
		実践研究I
兼任	教授	安藤 義久 (63) <平成31年4月>
		英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (75) <平成31年4月>
		教育方法特講

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	井上 透 (66) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (65) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (47) <平成31年4月>
		地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (62) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 実践研究II 修士論文作成特別研究
専	准教授	樺 彩見 (41) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加治工 尚子 (45) <平成31年4月>
		伝統文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習
専	准教授	加藤 真由美 (42) <平成31年4月>
		地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (51) <平成31年4月>
		実践研究I
専	助教	石橋 豊之 (29) <平成31年4月>
		アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
兼任	教授	安藤 義久 (63) <平成31年4月>
		英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (75) <平成31年4月>
		教育方法特講

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	井上 透 (67) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ文化政策特講 デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究I 修士論文作成特別研究
専	教授	久世 均 (66) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 文化情報管理特講～知的財産権等権利処理～ 修士論文作成特別研究
専	教授	谷 里佐 (48) <平成31年4月>
		地域文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習 修士論文作成特別研究
専	教授	三宅 茜巳 (63) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅲ～メディア論～ アーカイブ研究Ⅰ～文化資料研究～ 実践研究II 修士論文作成特別研究
専	准教授	樺 彩見 (42) <平成31年4月>
		デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ デジタルアーカイブ特講Ⅱ～デジタルアーカイブ研究論～ 修士論文作成特別研究
専	准教授	加藤 真由美 (43) <平成31年4月>
		地域文化特講 デジタルアーカイブ演習
専	講師	林 知代 (52) <平成31年4月>
		実践研究I
専	助教	石橋 豊之 (30) <平成31年4月>
		アーカイブ研究Ⅱ～MLA資料研究～ 実践研究II
兼任	教授	安藤 義久 (64) <平成31年4月>
		英語学特講Ⅰ 英語学特講Ⅱ 英語学演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	生田 孝至 (76) <平成31年4月>
		教育方法特講

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	亀井 俊介 (86) <平成31年4月> 文化学特講～日米文化の比較～	兼任	教授	亀井 俊介 (86) <平成31年4月> 文化学特講～日米文化の比較～			
兼任	教授	河原 俊昭 (68) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～	兼任	教授	河原 俊昭 (68) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～	兼任	教授	河原 俊昭 (69) <平成31年4月> 社会言語学特講～言語と社会～ 文化学特講～日米文化の比較～
兼任	教授	後藤 忠彦 (83) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	後藤 忠彦 (83) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	後藤 忠彦 (84) <平成31年4月> デジタルアーカイブ特講Ⅰ～ナレッジマネジメント(知的創造)～ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	助川 幸逸郎 (51) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	助川 幸逸郎 (51) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究	兼任	教授	助川 幸逸郎 (52) <平成31年4月> 日本文化特講Ⅰ 日本文化特講Ⅱ 日本文化演習Ⅰ 修士論文作成特別研究
兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～	兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～	兼任	教授	瀬ノ上 裕 (69) <平成31年4月> 教育方法研究～伝統文化～
兼任	教授	高橋 正司 (58) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講	兼任	教授	高橋 正司 (58) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講	兼任	教授	高橋 正司 (59) <平成31年4月> 教育原理特講 学校経営特講
兼任	教授	三尾 寛次 (61) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講	兼任	教授	三尾 寛次 (61) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講	兼任	教授	三尾 寛次 (62) <平成31年4月> 教育法規研究 教育経営特講
兼任	教授	横山 隆光 (64) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究	兼任	教授	横山 隆光 (64) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究	兼任	教授	横山 隆光 (65) <平成31年4月> 教材開発特講 教材開発研究
兼任	准教授	加治工 尚子 (44) <平成31年4月> 伝統文化特講 アーカイブ研究Ⅲ～オーラルヒストリー研究～ 文化メディア演習						
兼任	准教授	齋藤 陽子 (40) <平成31年4月> 教育実践特講	兼任	准教授	齋藤 陽子 (40) <平成31年4月> 教育実践特講	兼任	准教授	齋藤 陽子 (41) <平成31年4月> 教育実践特講
兼任	講師	青戸 泰子 (60) <平成31年4月> 臨床心理学特講	兼任	講師	青戸 泰子 (60) <平成31年4月> 臨床心理学特講	兼任	講師	青戸 泰子 (61) <平成31年4月> 臨床心理学特講
兼任	講師	大城 學 (66) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	大城 學 (66) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	大城 學 (67) <平成31年4月> 伝統文化特講
兼任	講師	木村 涼 (39) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	木村 涼 (40) <平成31年4月> 伝統文化特講	兼任	講師	木村 涼 (41) <平成31年4月> 伝統文化特講
兼任	講師	時実 象一 (75) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講	兼任	講師	時実 象一 (75) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講	兼任	講師	時実 象一 (76) <平成31年4月> デジタルアーカイブ文化政策特講

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・石原眞理准教授（専任）就任辞退。
- ・加治工尚子准教授就任区分を兼担より専任に変更。
- ・石橋豊之助教（専任）就任。

【令和2年度】

- ・亀井俊介教授（兼担）辞任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
2	2	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	3	1	0	8	0	4	3	1	1	9	0
(4)	(3)	(1)	(1)	(9)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
5	0	3				5	0	4			
(5)	(0)	(4)	/			(5)	(0)	(4)	/		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
4	3	1	1	9	0	4	3	1	1	9	0
[]	[]	[]	[1]	[1]	[]	[]	[]	[]	[1]	[1]	[]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
5	0	4				5	0	4			
[]	[]	[1]	/			[]	[]	[1]	/		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定 年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のう ち、定年を延長して 採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員のう ち、定年を延長して 採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{8} = \boxed{112.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{9} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	准教授	石原 真理	H31.3	選択	アーカイブ研究Ⅱ ～MLA資料研究～	①	H31.3一身上の都合のため就任辞退（元）	
				選択	実践研究II	①		
合計（D）				後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	2	科目	選択	2	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	2	科目	計	2	科目	
必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計（F）				後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	
必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	2	科目	選択	2	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	2	科目	計	2	科目	
必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{8} = \boxed{12.50} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>石原眞理准教授の後任については、新規採用教員で対応する。 学生へは、新学期ガイダンス及び時間割等で周知する。</p>

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
設 置 時 (令和元年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	・令和元年度については、専任教員2名（准教授 45歳、助教 29歳）を採用し、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員比率の改善を図った。引き続き、教員組織編成の年齢バランスを考慮して教員補充を進め、デジタルアーカイブの教育並びに研究指導ができる体制を確立する。（元）	履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文化創造学研究科（通信教育課程） デジタルアーカイブ専攻（修士課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	「該当なし」

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜女子大学FD委員会規程（平成25年4月1日施行）添付 ・岐阜女子大学SD委員会規程（平成25年4月1日施行）添付 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和2年度は以下のとおり開催を予定している。なお、FD委員会には教員11名、SD委員会には教員1名が参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会 令和2年5月11日（月）、9月7日（月）、令和3年3月1日（月） ・SD委員会 令和2年5月11日（月）、9月7日（月） <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会 <ul style="list-style-type: none"> FDの企画に関すること FDの実施に関すること FDの評価に関すること その他、FDの推進に関すること ・SD委員会 <ul style="list-style-type: none"> SDの企画に関すること SDの実施に関すること その他、SDの推進に関すること <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会 ・授業見学会 ・SD教職員研修会 ・研究倫理研修 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会 <ul style="list-style-type: none"> FD委員会等で企画し、教員等の参加のもと、教育研究内容及び教育方法の向上を目的として研修を行う。 ・授業見学会 <ul style="list-style-type: none"> FD委員会等で企画し、教員等の参加のもと、教育研究内容及び教育方法の向上を目的として見学会を行う。 ・SD教職員研修会
--

S D委員会等で企画し、教員および事務局職員の参加のもと、大学経営及び大学改革の推進を目的として研修を行う。

・研究倫理研修

F D委員会等で企画し、教員等の参加のもと、研究不正の防止を目的として研修を行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・F D研修会

毎年度9月に開催。専任教員は原則として全員参加。

・授業見学会

毎年度5月に開催。専任教員は原則として全員参加。

・S D教職員研修会

毎年度7月に開催。専任教員および事務職員は原則として全員参加。

・研究倫理研修

毎年度9月に開催。専任教員は原則として全員参加。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

F D研修では、授業や研究指導の工夫・改善を共有することによって、教員各自が自らの授業や研究指導を振り返り、個別の授業や研究指導の中で改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期末の授業終了時に「授業改善に関わる学生アンケート」を実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

「授業改善に関わる学生アンケート」の結果および授業改善策を、全専任教員等を対象に対して公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

「該当なし」

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

「該当なし」

c 委員会の審議事項等

「該当なし」

d その他

「該当なし」

② 審議状況

a 審議した内容

「該当なし」

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

「該当なし」

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づいて、授業及び研究指導を着実に実施している。
設置の趣旨に沿った教育および研究を実施し、マルチメディア等の新たな技術を身につけ、主体性を持って豊かな文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を進めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

令和3年4月頃公開する予定をしている。外部評価委員会報告書では、各学科・専攻、大学院の学修状況等の報告内容および、外部の評価委員からの講評等を公開している。

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年4月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

